

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600074		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 花の郷	ユニット名	
所在地	〒309-1614 茨城県笠間市寺崎161-1		
自己評価作成日	平成26年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kihon=true&JigyosyoCd=0891600074-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年6月11日	評価機関 決 済 日	平成26年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域に根ざした事業所として、住み慣れた場所で通い・泊まり・訪問サービスを受ける事が出来、また、馴染みの職員が対応致し一人ひとりが、その人らしい生活が出来るよう支援致します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は大型店舗が立ち並ぶ幹線道路から車で1分程脇に入った高台に立地し、笠間の山並みや電車、車の行きかう様子が眺望できる環境となっている。</p> <p>管理者は職員が何でも言えるよう、日頃から職員とコミュニケーションを図ることに努め、職員の提案や要望などがあった場合には即答するのではなく、全職員で相談しながら提案や要望などを受け入れている。</p> <p>同一法人の介護老人福祉施設や認知症対応型共同生活介護などからの異動の職員が多く、職員一人ひとりが年間行事の担当者となるとともに、担当行事月には豊富な介護経験を活かし、廃材の空箱に布を張り、テーブルの下に置いて足置きにしたり、2つある浴槽にそれぞれ違う入浴剤を入れて利用者に入浴の楽しみを味わってもらうなど、利用者の立場に立ったアイデア満載の工夫を取り入れた支援に力を注いでいる。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアカンファレンスなどでケアの方向性を決める時に理念を基に考えるようにしている。玄関前に掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、職員が出勤時に確認ができるよう玄関に掲示している。 管理者と職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和しながら共有するとともに、職員は身分証明書の裏に職員一人ひとりが手書きの理念を携帯し、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の歌、傾聴、踊りのボランティアとの交流や、近所の保育所の訪問を受け交流を図っている。また昨年は法人で秋祭りを開催し地域の方にも参加頂いた。	利用者は近隣の保育園から運動会に招待され、職員と一緒に応援に参加するほか、地域の祭りのお神輿を応援するなど、地域の一員となれるように交流している。 宿泊サービスを利用している利用者は、職員と一緒に農家の人々による野菜販売の朝市に野菜を購入しに行き、顔馴染みとなっている農家の方から野菜のお裾分けを頂くなど、日常的に地域住民と交流している。 年1回隣接する障害者支援事業所と合同で、ボランティア団体による日本舞踊や大正琴の演奏会などを行う「木犀会祭」を開催し、地域住民を招待して利用者との交流ができるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員さん、区長さんにメンバーとして参加いただき、支援内容等を報告し理解して頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しているが、地域との交流の大切さは色々な形で参加者から出る事が多く、今年の11月法人で秋祭りを開催し地域の方に参加頂いた。また今後は近所の保育所の所長さんにメンバーとして参加いただく予定であり、積極的な意見交換ができるように努力している。	運営推進会議は家族の代表や市職員、区長、民生委員、近隣の保育園長、管理者、介護支援専門員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や行事、運営状況の報告を行うとともに、事業所利用人数の増加はどのようにしたらよいかなどの議題を話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「事業所の利用人数を増やすには、近隣の寺で観音講がある時は人が集まるので、事業所のPRを兼ねて小規模多機能型サービスを説明すれば、地域住民に事業所を把握してもらえないのではないか」や「茨城県歯科衛生士会に来訪してもらい、口腔ケアや嚥下体操講習などを取り入れてみてはどうか」などの提案や助言を受け、実施してサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして毎回参加いただき状況報告、相談行っている。毎月作成している事業所便りも見て頂いたり、何かあれば相談し指示頂く等協力関係を築くようにしている。	管理者は毎月1回事業所が発行する「花の郷たより」を市担当者に持参しながら、事業所の空き情報や運営状況などを報告している。 管理者は利用者が自宅で使用するベッドや車いすなどをレンタル利用することへの疑問点を市担当者に相談したり、市担当者からは、一人暮らしの利用者の受け入れについて相談を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。 管理者は毎月1回の地域包括ケア会議に出席し、情報交換などを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内に身体拘束をしないケアのパンフ等を掲示し職員が常に意識できるようにしている。現在も身体拘束は行っていないが、やむを得ず身体拘束をする場合のマニュアル、説明同意書、身体拘束に関する経過観察記録を作成、整備してある。	月1回の全体会議時に身体拘束をしないケアの勉強会を行い、全職員が身体拘束の内容と弊害を理解しているほか、身体拘束の状態になってはいないかを確認している。 管理者は日々の生活の中で、職員が利用者に対して強い口調で話したり、利用者の気持ちを押しさえつけたりしているような時はその都度注意を促し、申し送りや全体会議時に全職員と話し合っている。 玄関は常時開錠し、利用者は玄関から自由に入出りができるほか、隣接する障害者支援事業所を結ぶ渡り廊下も自由に行き来ができる環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを目につきやすいところに掲示している。日々の支援の中で言葉使い等職員間で注意しあったり、利用者の様子など観察し何かあれば管理者に報告するように職員に伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加させて知識を深めてもらったり、得た知識は他職員に申し送り時などで伝えてもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、疑問が残らないように確認しながら行い、納得頂いた上で契約を結ぶようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や来月の予定を確認する際、利用者や家族から意見等伺っている。職員も送迎時に意見を伺えるように時間配分を行っている。苦情相談受付担当者を選任し、第三者委員も選定している。玄関に意見箱を設置し直接意見等を出し難い家族等への配慮も行っている。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは送迎時や訪問サービス時に意見や要望を聴くとともに、通いサービスに持参する「連絡ノート」に記載してもらい、把握に努めている。 今年度家族等に無記名のアンケートを実施したところ、送迎時間についての問題点があがり、管理者と職員は送迎時間について話し合うなど、運営に反映させている。 年1回家族会を開催し、家族等からはインフルエンザや緊急時の事業所の対応、家族等がどう対処すればよいかなど、活発な意見や質問が出て、情報交換の場となっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人にて「目標管理シート」を全職員に作成させて、意見をくみ上げている。管理者は1年に3回職員と個別面談を行い職員の意見、提案等を聞き、できるだけ意向に添えるように努力している。	管理者は月1回の全体会議に職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、意見を言い易くするために休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員からリフレッシュ休暇の導入にあたり、全職員が平等に休暇を取る方法として、「職員の休暇を事前に1年間の予定表の中に組み込んでどうか」との提案や「トイレトペーパーなどの日用品の買い物は購入量が多く大変なうえ、常時勤務時間外に職員が購入している」とのことから、管理者は年間予定にリフレッシュ休暇を組み込むとともに、日用品は外部業者に注文するなど、職員の提案や意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回の人事考課において勤務状況を評価し、職員が向上心を持てるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修委員会に事業所からも委員が選ばれ研修には1名以上参加できるように勤務体制を整えている。外部の研修もパンフレット等を朝礼時に見てもらい多くの機会を得られるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ケア連携情報交換会に参加し、同業者との交流、情報交換できるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の段階で要望を伺い、職員全員がその事を理解しておくようにしている。利用開始時には不安が生じないように声かけ、何かあればすぐに対応できるように見守りを行い、調整している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、利用前に十分お話を伺い、できる限り意向に添えるように支援方法を説明している。利用開始時には利用状況を送迎時、連絡帳等で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談があった段階で、必要な支援を提案するが、主治医等とも連携してより良い支援を探れるようにしている。事業所以外のレンタルや医療的支援も必要時対応できるように各事業所と連携を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は利用者にも行ってもらったり、昔の知恵を職員が教えてもらうなどお互いに支えあう関係が築けるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族しかできない精神面の支援を理解していただけるように必要に応じて説明していたり何かあればまず家族と話し合い、一緒に支援していることを常に感じていただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人等にはいつでも気軽に面会に来ていただけるようお願いしている。また同じ地域で以前から顔なじみの利用者同士で気兼ねなく昔話を楽しめるように調整を図ったりしている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 利用者の友人や家族等が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないよう支援をしている。 月2回利用者の家族等が来訪して手芸教室を開いてくれ、利用者の楽しみとなっている。 利用者の馴染みの理・美容師が月1回散髪に来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間としてお互いが支えあえるように声をかけたり、急な宿泊で不安を感じるような状態の時に一緒に過ごし仲良くなっていくなど共に利用する仲間意識を高められるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何かあればいつでも相談に応じる事、気軽に遊びに来ていただけるように伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活を大切に、まずは本人の意向に添うように支援を検討し了承いただき支援するが状態等の変化に対しすぐに変更行い、本人にもっとも良いであろう支援ができるようにしている。	管理者や職員は利用者との日々の関わりの中で、会話や行動を観察しながら思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、表情やしぐさから判断したり、家族等から情報を得ているほか、管理者と職員で話し合っ利用者者の思いを汲み取るよう努めている。 管理者は把握した内容を申し送り時に職員に伝えているほか、「申し送りノート」や「個人ファイル」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に十分に話を伺うが、利用中の会話や家族の何気ない話の中に新しい情報がある場合がある為、職員間で連携を持ち様々な角度から利用者把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様、常に利用者・家族に対し努めて傾聴行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い、申し送りや日々気がつけば家族・職員・他事業所担当者からの情報のもと介護計画作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、医師の意見を取り入れて作成するとともに、モニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録ファイルを作成し利用状態等を記載し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な用事による利用日の変更、早朝、夜間の延長・・・等々、利用者・家族の都合に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、福祉ヤクルト、介護タクシー等々何かあれば必要な支援を提案したり、手配のお手伝いを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急な体調の変化時など家族、医療機関等へ連絡行い、必要時には送迎サービス、付き添い等行ったり、訪問診療の支援も行っている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能ことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診時には利用者の状態などを伝えているほか、家族等が付き添えない場合は職員が支援をしている。 かかりつけ医への受診結果は家族等から報告を受け、「個人ファイル」に記載して全職員で共有している。 現在3名の利用者は家族等の立ち会いのもと、月1回協力医療機関の医師による訪問診療を受診しており、受診結果は「個人ファイル」に記載している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はバイタルチェック等体調管理を中心に支援し、介護職員等からの情報や気づきに対し指示や対応を行っている。訪問看護師も同様に必要な看護を受けられるように調整している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の付き添い、利用時の情報提供、入院中の経過、退院時の情報提供と常に良い関係が保てるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までに看取りの経験や終末期ケアの利用者はなく、対応も今の段階では難しいと思われる。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明している。 現在、利用者や家族等から「重度化・終末期の介護に関する事前希望書」を得ており、「自宅で最期を迎えたい」と希望している利用者や家族等を管理者は把握しているが、全職員で重度化や終末期に向けた研修などは実施されておらず、看取り介護を支援するまでには至っていない。	管理者と職員で重度化や終末期、看取り介護について話し合うとともに、看取り介護支援における段階的な対応についての研修を実施することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに対応できるようにしている。職員に消防署の応急手当の講習会等にも参加させ知識を深め、実践できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもと避難訓練を実施。その際、夜間を想定した避難について消防署職員より指示は受けている。災害時に備え米や飲料水、缶詰など備蓄している。	避難訓練は消防署立ち合いのもと、同一法人の障害者支援事業所と合同で年2回実施しているが、夜間を想定した避難訓練は実施されていないほか、近隣住民の参加を得た避難訓練には至っていない。 訓練後の報告書には総評として、訓練での反省点や今後の課題などを記載しているが、参加した人数のみで、参加者の名前は記載されていない。 災害に備えて米やパン、水、おむつ、懐中電灯、電池、リハビリパンツ、パッド、布団、毛布などを備蓄するとともに、備蓄品リストを作成して管理をしている。	夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。 運営推進会議の参加者に協力を呼びかけるなど、地域住民の参加を得た避難訓練になることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊重を意識した声かけができるよう否定的な言葉を使わないように個別に職員が気づくようにしている。排泄などの声かけには小さな声で対応したり、着替え等は居室にて対応するなど配慮している。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援をしている。 職員はトイレ誘導時には利用者に小声で声をかけるほか、トイレのドアを閉めて扉の外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	提案行い、決定は利用者自らが行うように常に職員に指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切にし食事時間の変更や個別支援として好きなレクの選択などそれぞれに決定していただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のこだわりを大切にしている。洋服の選択や基礎化粧品、シャンプーの持込みなど、こだわりに配慮できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器片付けなど利用者には能力に応じて出来る事を行ってもらっている。利用者と職員はおしゃべりしながら一緒に食事をし、手作りでおやつと一緒に作るなど楽しい時間を共有している。	隣接する障害者支援事業所の給食サービス事業部が献立と調理を担当し、常食やきざみ食、ペーストなど、利用者一人ひとりの嚥下能力に合った食事を提供している。 職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、楽しく会話をしながら食事が楽しめるよう支援をしている。 利用者はテーブル拭きや茶碗洗いなどの後片付けをできる範囲で行っている。 職員は利用者と一緒に好み焼やどら焼きなどの手作りおやつを作ったり、誕生日に手作りケーキで祝ったりしているほか、外食を取り入れ、食事が楽しみなものになるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて対応している。常食、一口大、キザミ、ペーストと嚥下状態に応じて対応したり、水分もとろみをつけたり、好みがあれば自分用のお茶を持参いただき個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者は口腔ケア用品を準備していただき、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自宅での排泄状況を送迎時確認する。定時の誘導以外に表情や動作等の排泄のシグナルを見逃さないように様子観察を行い、トイレで排泄が継続できるようにしている。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援をしている。 夜間おむつを使用している利用者でも、日中はリハビリパンツとパッドを使用してトイレで排泄ができるよう支援をしている。 宿泊サービスを利用している一部の利用者へは、夜間は居室にポータブルトイレを配置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を観察し、便秘傾向があればすぐに薬ではなく、まずは十分な水分、適度な運動、おやつに乳製品など提供し、自然に排便が促せるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を取り入れながら清潔を保ち、プライバシーに配慮しゆっくりと一人ずつ入浴できるようにしている。入浴拒否がある利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「家族がお風呂に入って来てねと言ってたよ」や「綺麗になってさっぱりしましょう」、「入浴剤を入れてあるから綺麗な色の湯だよ」など、利用者の興味のある話しをしながらさりげなく風呂場へ誘導し、入浴ができるよう支援をしている。端午の節句や冬至には菖蒲湯や柚子湯にして季節感を取り入れ、入浴が楽しみなものとなるよう支援をしている。	風呂は毎日沸かし、宿泊サービスの利用者は週2回を目安に入浴日を設け、通いサービスの利用者は来所日に入浴を支援しているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じて対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	洋室でベッド、畳みで布団の両方の部屋があり、本人の希望で部屋の選択ができるようにしている。「朝ゆっくり起きて・・・」「夜は早く寝たい」一人ひとりの生活習慣に合わせて安心して過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者・家族から薬の変更等があれば随時、連絡いただき、看護師が管理、薬の説明書等から副作用等何かあれば職員全員に説明し間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内のプランターで作物を育てたり、施設で使う雑巾を縫ってもらったり経験を生かした役割をもった支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や初詣、菊祭りなど季節の行事に合わせた外出や敷地内の散歩など気分転換図っている。また利用者の希望に添ったドライブや買い物などにも臨機応変に対応している。	天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺の寺や公園まで車で出かけ、花などを見ながら散歩をして五感を刺激したり、四季の移り変わりを肌で感じられるように支援をしている。 季節の花を見物する外出行事を年間計画に組み込むとともに、外食や買い物などのドライブを企画し、気分転換ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は家族に提案し、お小遣いを持っていき、欲しい物を選び、購入したり、食べたい物を注文して食べたりするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を出したり、本人が「家族の声を聞きたい」等の希望があれば電話の取次ぎをしたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や花を飾り季節感を感じていただいたり、利用中作成した作品を飾り自分達の生活空間であることを意識できるようにしている。毎日の掃除は消毒を必ず使用し清潔を保てるようにしている。	居間兼食堂の天井には、梅雨に入って大雨が毎日続いているので、晴れるように利用者と職員が願いを込めて制作した「てるてるぼうず」が沢山ぶら下げられており、季節感がうかがえる。 居間兼食堂の一角にはテレビやソファ、ベッドが配置され、利用者が思い思いに寛げる環境となっている。 廊下は車いすでも楽に通れる幅の広さで、廊下の壁に手摺を設置して雨の日でも歩行訓練ができる環境となっている。 浴室と脱衣場で温度差がないよう、脱衣場にエアコンを設置して温度調節をしているほか、服を脱ぎ着する際の転倒防止のため椅子を配置したり、縦に手摺を設置したりして、利用者が安心して入浴ができるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の部屋があり個別に、ゆっくりと過ごして頂いたり、ホール内の一面に間仕切りカーテンを使用し、ベッドを設置して休める空間を作っている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用している寝具や時計など使い慣れた物を持参いただき心地よく過ごしていただいている。 また若い頃から寝起きにお経を唱える事を習慣にされている利用者には家族にお願いし経本を持参いただいた事で精神的に安定された事もある。	宿泊サービスを利用する居室には、エアコンやベッド、カーテン、整理箆筒が備え付けられており、各居室には花の名前が付けられている。 管理者は宿泊サービスを利用する利用者には、混乱を防ぐためにも、以前宿泊した居室を提供するように配慮している。 利用者は、家族等と相談しながら自宅で愛用している寝具や時計、洋服など、思い思いの物品を持ち込みながら、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁の手すりを活用し安全に歩行ができるようになっている。洗面所にもつかまりやすく手すりを設置し自分で洗面や口腔ケアができるようになっており、出来る事を継続していただいている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所花の郷

作成日 平成26年10月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練の実施ができていない。	夜勤を担当する職員が安全かつ迅速に対応できるようにする。	利用者の午睡の時間を夜間と想定し職員1人で避難、通報訓練を行う。	6ヶ月
2	33	看取り介護についての研修ができていない。	看取りについての理解、知識を得る。	法人内、特養看護師による研修会の企画、笠間市立病院の医療職による勉強会の企画	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。